

キャラクター名  
火雅千 祀

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エグザイル	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17	性別	女
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	待ち望まれた子	経験	トラウマ	邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	7
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
血騎の刃	白兵	5r+1	0	18+2d		渴き+Dロイス
蛇血の劔(カチツル)	白兵	8r+1	0	36+4d		100以降。渴き+始祖+ジャ+ブラバ+Dロイス
	白兵	7r+1	0	消費HP*2		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服		1			

所持品	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 1    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
火雅千家	P 懐旧	N 憐憫		
対抗種	P	N		
霧谷雄吾	P 好意	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
スーパーランナー	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	即座に戦闘移動。移動距離+[Lv*5]。シーン1回							
赫き剣	5	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果:	HP[Lv×2]消費+8の攻撃力							
コンセントレイト:ブラム=ストーカー	2	2	メジャー					
効果:	c値-Lv(下限値7)							
渴きの主	1	4	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果:	起点。装甲無視+HP[Lv*4]回復。							
ブラッドバーン	3	4	メジャー	-	-	シンドローム	80↑	
効果:	攻撃力+[Lv×4]5HP消費							
始祖の血統	2	4	メジャー	-	-	シンドローム	100↑	
効果:	エフェクトを組み合わせた判定のダイス							
ジャイアントグロウス	2	5	メジャー	武器	範囲(選択)	対決	100↑	
効果:	対象変更。攻+2d シナリオLv回							
傅く歯車	★							
効果:	めちゃくちゃ器用になる。精密作業が可能							
馨しき鮮血	★							
効果:	匂いで色々察知できる							
異形の歩み	★							
効果:	壁でも天井でも歩ける							
効果:								
効果:								
効果:								

「——火雅千めに笑う権利などありません。泣く事も、憤る事も同様に。私の生には償いしかありませんから」

■人物  
日本古来よりの武家、火雅千家の次期当主となる予定だった蛇神映し(かがちばやし、かがみうつし)の娘。蛇神を宿した人間は先を見通し血によって人を統べる力を持ち長寿となる。その力を相応しい次代の娘に蛇神ごと映し渡す……のが通例だが蛇神映しには百年に一度執り行われる映り蛇神(うつりかがみ)という間引きの儀式が存在する。

■経歴  
人に宿り供物を得て力を与える蛇神は、力を持ちすぎた火雅千家が増長せぬよう定期的に別側面を持って当代の娘に宿る。映り蛇神の娘は、その瞳で悪しき者を見抜き、娘の手によって間引く。……善なのだが。祀は初代の生き写しとも言われるほどそっくりな身体をしており、蛇神との相性も群を抜いていたため制御されていた蛇の力がフルに展開できてしまった。

結果、映り蛇神の儀式は行き過ぎた血責裁判となり一族は祀(蛇神)の手によって皆殺しにされる。

■人間性  
その経験がトラウマになっており、自分の力で人を傷付ける度には手は震え、動悸は激しくなる。何かを護る、という行為に無意識の脅迫的憧憬を抱いた。どうすればあの結末を避けられたのか、もし自分でなければ皆は助かったのではないかと、常に自責の念に苛まれている。